

# 栃木県の農業資材等の 価格高騰を巡る情勢について

令和5（2023）年11月  
栃木県農政部

# 目次

## 資材等価格の現状①

1

- ・ 肥料
- ・ 燃料（A重油）

## 資材等価格の現状②

2

- ・ 配合飼料
- ・ その他資材等（農薬、ナフサ、為替相場）

## 本県農業者への影響

3

- ・ 情勢変化による農業者の影響
- ・ 品目別の年間販売額への影響
- ・ 価格高騰の影響に対する農業者の取組

## 価格高騰対策の推進方策

4

- ・ 土地利用型作物
- ・ 施設野菜、施設花き
- ・ 畜産酪農

## 対策に係る支援事業（短期的な取組）

5

- ・ 令和5年5月補正予算等による農業者への支援事業

## 対策に繋がる事業（中長期的な取組）

6

- ・ 令和5年度当初予算による事業

## 農業者の取組事例

7

- ・ 土地利用型作物
- ・ 施設園芸

## 今後の対策の推進について

8

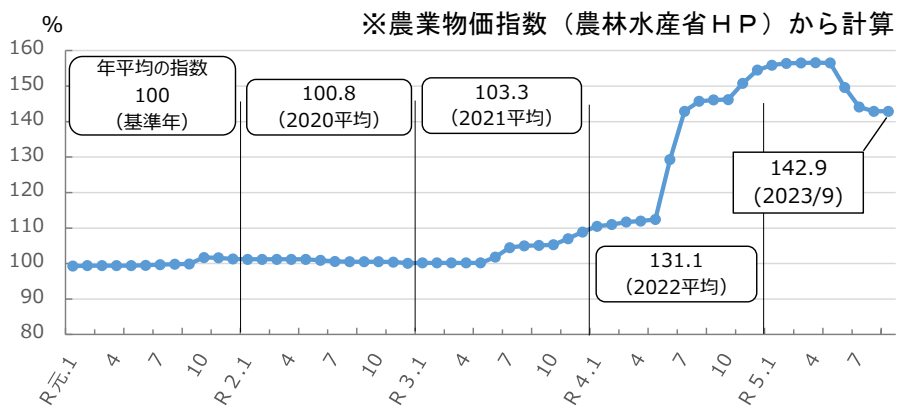
- ・ 対策の推進方法
- ・ 県域・地域における重点推進事項

# 資材等価格の現状①

- 肥料価格は、コロナ禍や中国の国内優先政策、ウクライナ侵攻による輸出の停滞、代替国に需要が集中したことにより価格が高騰。令和5年以降は、輸入原料価格の国際市況の軟化により低下傾向。
- 燃料（A重油）価格は、令和2年以降のコロナ禍による不透明な経済状況の影響により、不安定な動きで推移。令和4年のウクライナ侵攻による世界的なエネルギー需要のひっ迫を背景に、令和5年以降、OPECプラス等の減産による原油高騰や円安基調、国の補助金の段階的減額の影響により価格は更に上昇。

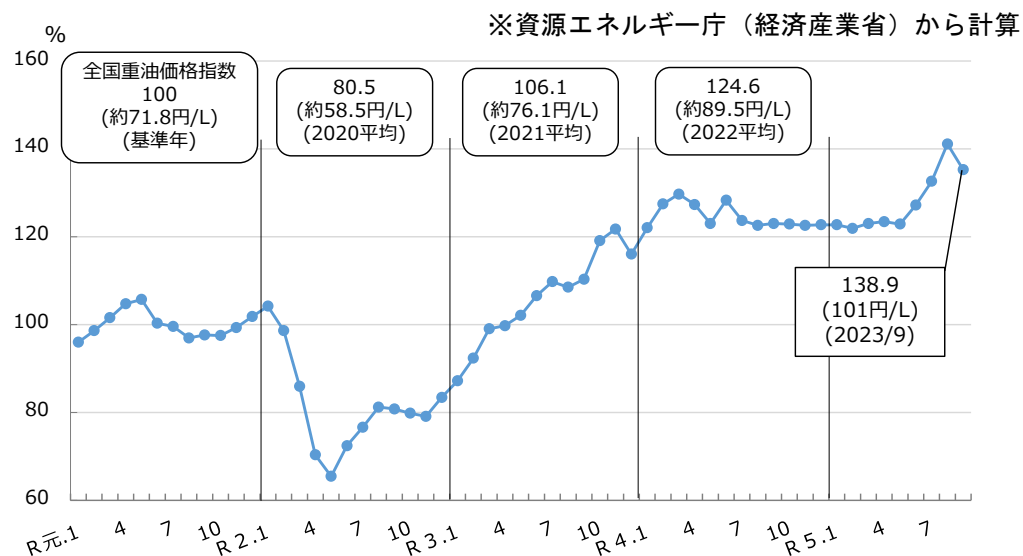
## 肥料の状況

### 肥料物価指数の推移（令和元年比）

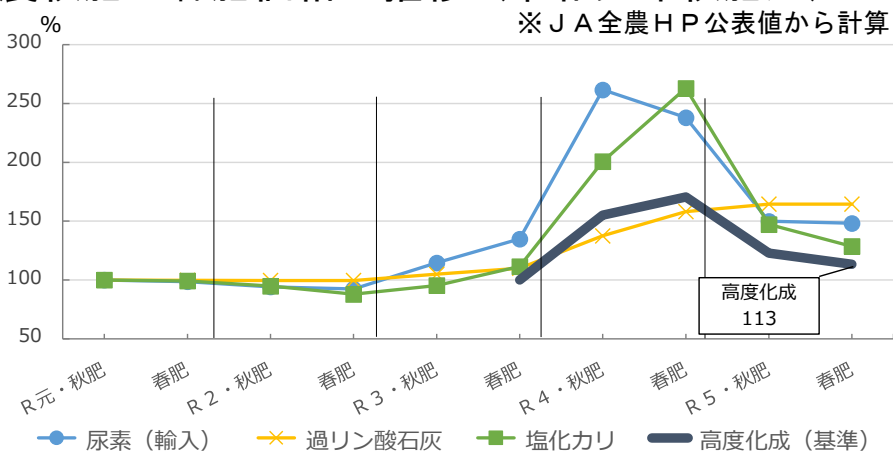


## 燃料（A重油）の状況

### 全国A重油価格指数の推移（令和元年比）



### 全農秋肥・春肥価格の推移（令和元年秋肥比）

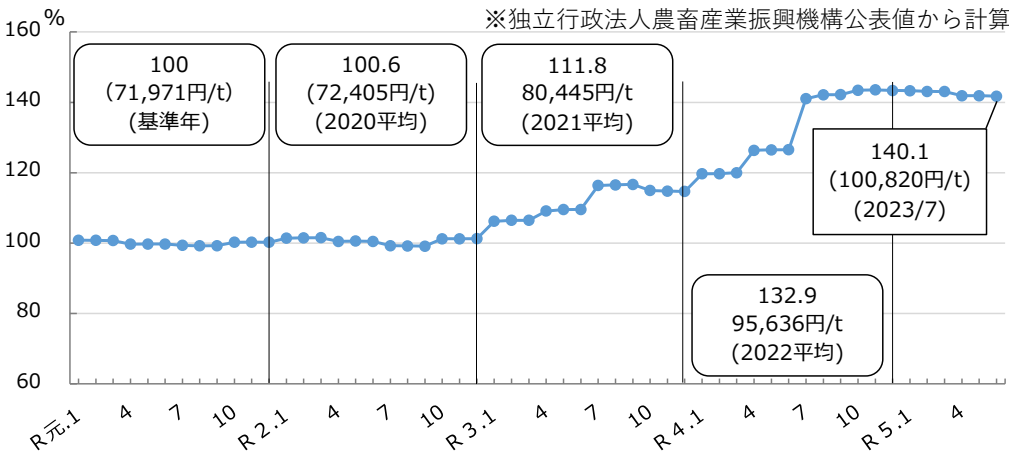


# 資材等価格の現状②

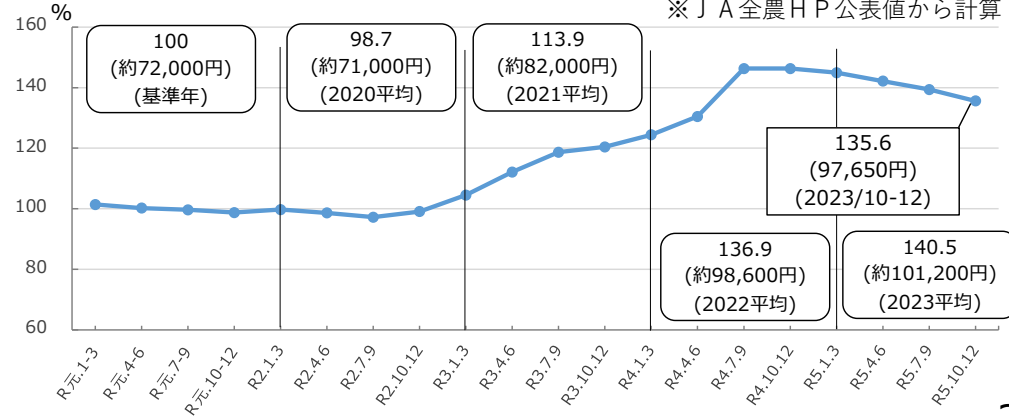
- 配合飼料価格は、令和4年以降の中国による需要増加やコロナ禍からの経済回復による原料価格（輸入とうもろこしや大豆油かす等）の上昇により更に急騰。
- ナフサ価格は、令和4年以降の中国の景気低迷による石油化学需要の鈍化や供給過剰により低下傾向。
- 為替相場は、令和2年から円高で推移していたが、ウクライナ侵攻による国際情勢変化により急激に円安が進行し、現在も産業に係る輸入原料・資材の不足や価格高騰の影響により円安が続いている。

## 配合飼料の状況

配合飼料価格指数（令和元年比）の推移

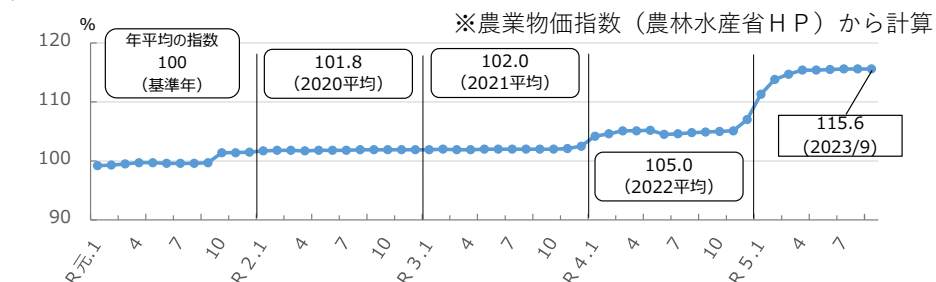


全農配合飼料価格指数の推移（令和元年比）

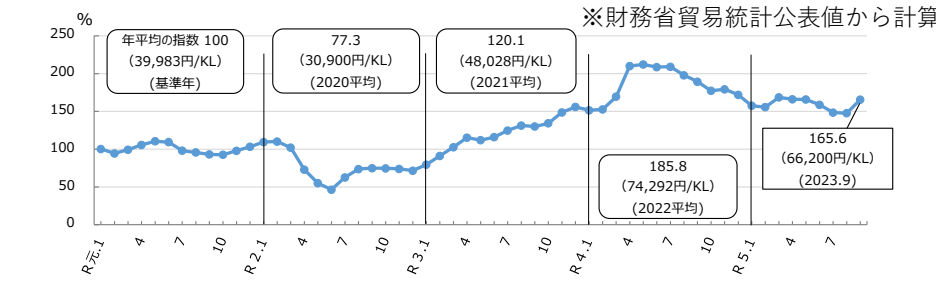


## その他資材等の状況

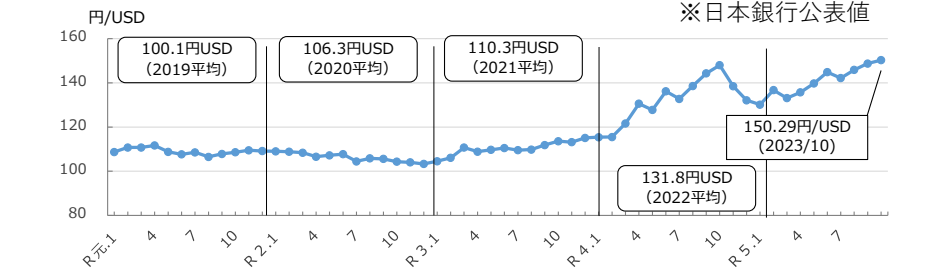
農薬価格指数の推移（令和元年比）



ナフサ価格指数の推移（令和元年比）



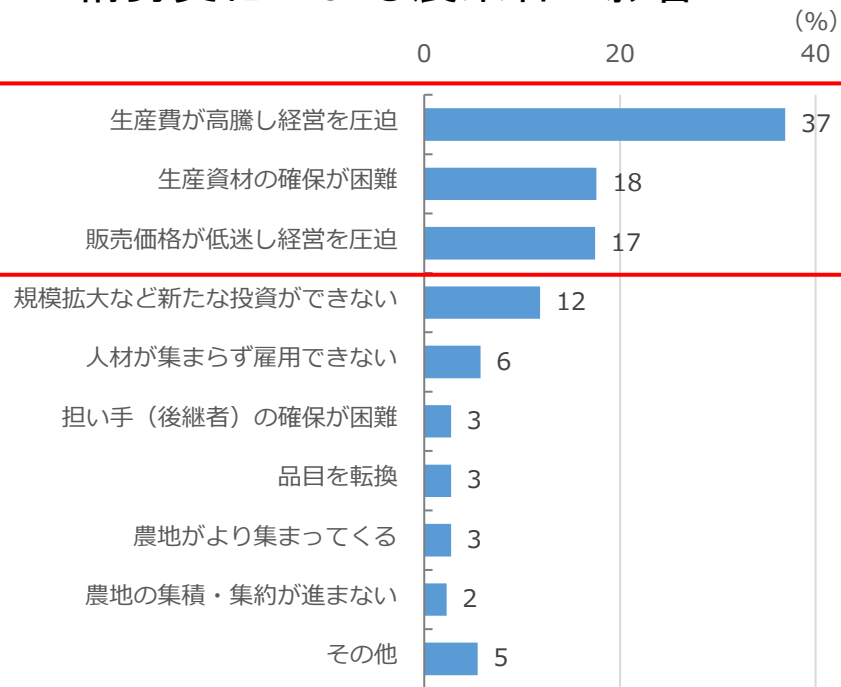
為替相場の推移



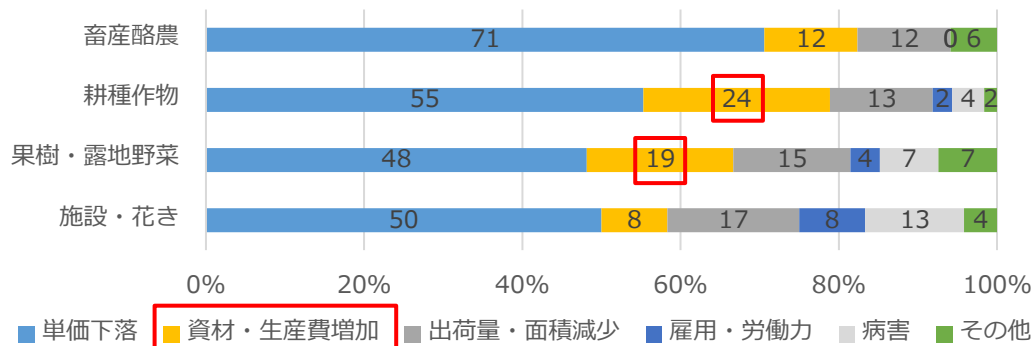
# 本県農業者への影響（農業経営への影響に係る農業者アンケート）

- 「最近の情勢変化による農業経営への影響は何か」という問いでは「生産費が高騰し経営を圧迫」が最も多く、「生産資材の確保が困難」「販売価格が低迷し経営を圧迫」が続いて多い。
- 年間販売金額の減少の一因として資材・生産費の増加が影響しており、特に耕種作物（米・麦・大豆）と果樹・露地野菜で影響が大きい。
- 価格高騰に係る農業者の取組として、耕種作物・露地野菜では「堆肥等有機物の活用」や「化学肥料削減」、畜産酪農では自給飼料の増産等の「資材等の見直し」の項目が高い傾向。

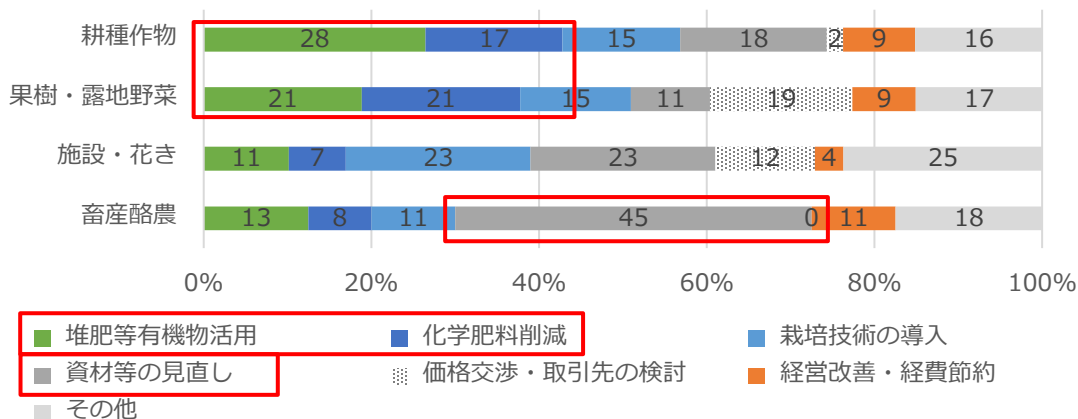
## 情勢変化による農業者の影響



## 品目別の年間販売額への影響要因



## 価格高騰の影響に対する農業者の取組



### 【農業者アンケート調査概要】

名称：「農業をめぐる情勢変化の影響や今後の経営」に関するアンケート調査  
 調査期間：令和5年3月1日～3月31日  
 集計件数：261件  
 品目（上位3品目）：米191、麦大豆125、施設野菜75、露地野菜72、果樹20、花き14、肉用牛（繁殖含）：27、乳用牛16、養豚：3

# 価格高騰対策の推進方策

○ 「農業資材等価格高騰に対する農業経営の安定に向けた対策の推進について（令和5（2023）年7月25日付け農政第197号通知）」により、作物別の推進方策を基本的・短期的・中長期的視点に分けて取組を整理。

## 作物別の推進方策（特に重点的な取組）

作物	推進方策	取組項目		
		コスト削減	収入増加	生産量増加
土地利用型 作物	【基本的な取組】		○	
	・病害虫発生予察情報を活用した発生初期の防除		○	
	・経営安定所得対策や収入保険、共済等への加入			
施設野菜 施設花き	【短期的視点】	○		
	・資材・燃料価格高騰に係る支援策（国・県・市町）の活用	○		
	・土壌診断等の化学肥料の低減に向けた取組			
畜産酪農	【中長期的視点】	○	○	○
	・生産コスト削減や省力化に向け、圃場の大区画化や集約化等			
施設野菜 施設花き	【基本的な取組】		○	
	・セーフティネット（燃料価格高騰対策等）への加入			
	【短期的視点】	○		
畜産酪農	・設備の適切な管理やコスト削減に向けた指導	○		
	・資材等の共同購入や機械の共同利用			
	【中長期的視点】	○	○	○
畜産酪農	・ハウス内環境モニタリングデータを活用した環境制御の推進			
	・スマート農業等の積極的な活用			
畜産酪農	【基本的な取組】		○	
	・衛生管理や適切なワクチン接種等による疾病の予防		○	
	・暑熱ストレス等の軽減による事故や疾病の防止			
畜産酪農	【短期的視点】	○		
	・稲発酵粗飼料の作付面積拡大や多収品種への転換	○		
	・公共牧場や経営内放牧を活用した飼料費・労働費の節減			
畜産酪農	【中長期的視点】	○		
	・耕畜連携推進による稲わら等飼料の地域内流通の促進	○		
	・発情発見システムなどのICT機器導入による生産性向上		○	○

# 対策に係る支援事業（短期的な取組）

- 令和3年11月より、相談窓口の設置やコスト削減に向けた技術指導を行うとともに、国や県の支援策について、リーフレットによる周知徹底を図るなど、農業者等に対する支援を実施してきた。
- 今後も不透明な状況が続くと考えられることから、農業の経営の安定化を図っていく必要があるため、令和5年度の国の追加策を活用し、て肥料・飼料・燃料代等の価格高騰に対する支援を実施。

## 令和5年5月補正予算等による農業者への主な支援事業

項目	事業名	対象者	支援内容
肥料購入支援	肥料価格高騰緊急支援事業【5月補正】	5名以上の農業者グループ	○化学肥料の低減に取り組む農業者等に対する支援 対象：令和5年6～9月に購入した肥料 補助率：肥料費高騰分の1/2以内
肥料低減・堆肥の活用支援	堆肥利活用促進事業【R4繰越】	協議会等	○堆肥の円滑な流通を図るために必要な堆肥のペレット加工機、散布機等の導入経費の一部を支援 補助率：1/2以内
省エネ機器導入支援	燃油価格高騰対応省エネ支援事業【R4繰越】	施設園芸農家等	○施設園芸の省エネルギー機器の導入支援 補助対象：多層カーテン、多段サーモスタッド、循環扇 等 ※ 機器単独での導入可 補助率：1/2以内
飼料価格高騰に対する支援	飼料高騰対策緊急支援事業【5月補正】		○飼料の価格高騰の影響を受ける畜産農家等の生産活動に対する経費の支援
	配合飼料価格安定基金積立支援事業	畜産農家等	○配合飼料価格安定制度の積立金の増額分に対する支援 補助額：200円/t
	配合飼料購入支援事業	畜産農家等	○配合飼料価格安定制度では賄えない価格高騰に対する支援 補助額：2,000円/t
	粗飼料購入支援事業	畜産農家等	○乳牛及び肉牛の飼養に要する粗飼料価格高騰に対する支援 補助額：乳用牛 2,250円/頭 肉用牛 450円/頭
	酪農粗飼料生産支援事業	酪農家等	○乳牛の飼養に要する自給飼料生産費用高騰に対する支援 補助額：6,400円/頭

# 対策に繋がる事業（中長期的な取組）

- 「とちぎグリーン農業推進方針」や「令和5年度持続的畜産経営の実現に向けた取組方針」など、資材や飼料等のコスト削減に係る方策も含まれていることから、資材等価格高騰対策に繋がる取組として推進。
- 今後は、耕畜連携による自給飼料の増産や堆肥の活用促進など、中長期的な視点での取り組みを講じていく必要。

## 令和5年度当初予算による事業

### とちぎグリーン農業推進事業

「とちぎグリーン農業推進方針」に基づいたセミナーの開催や有機農業の拡大の検討、市町の農業の将来像を描いたビジョン・計画の策定を支援

#### <グリーンな栽培体系への転換>

環境に優しい栽培技術よ、省力化に資する技術を組み合わせた栽培体系の転換。

令和5年度までに、延べ14事例の取組を実証。

#### 減化学肥料技術の導入

未利用資源の活用（堆肥等有機物）

可給態窒素測定による減肥指針の検討



### 持続的畜産経営推進事業

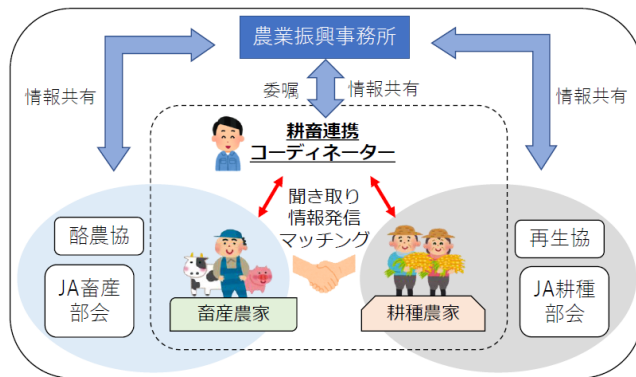
耕畜連携の強化による自給飼料の増産や堆肥の有効活用を推進

#### <耕畜連携コーディネーター>

地域の耕種・畜産農家における飼料の作付意向や飼料・堆肥の需要を確認し、農家同士を結びつけるコーディネーターを設置。

#### <飼料生産・販売組織の育成>

飼料の生産・販売に新たに取り組む組織(コントラクター)の活動を支援

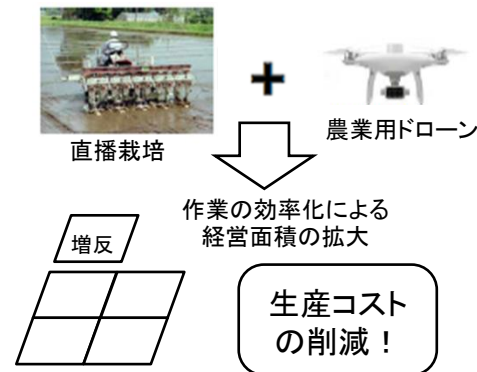


### お米の超低コスト生産対策事業

需要が見込まれるマーケットへの確に対応する米づくりの実現に向け、大規模生産農家による超低コスト生産体制の確立を支援

#### <モデル地区導入イメージ>

- ①生産技術の導入（直播栽培、多収品種の切替など）
- ②スマート農業機械の導入による省力化・効率化





# 農業者の取組事例

- 農業資材等価格高騰対策として、農業者は独自で工夫・改善してコスト削減等に取り組んでいる。
- 土地利用型農家では、耕畜連携等により入手した堆肥を活用した飼料用米の肥料を全量堆肥へ切り替える取組や、トマト農家では、ヒートポンプと温風暖房機を組み合わせたハイブリッド運転に加え、ハウス側面に不織布を利用したサイドカーテン導入などの取組を講じている。

作物	品目	取組事例
土地利用型作物	水稻	大麦緑肥を活用した化学肥料使用量の低減
	飼料用米	耕畜連携を利用した全量有機質肥料への切替え
施設園芸	トマト	ヒートポンプや保温資材を活用した燃料消費量の削減
	トマト	BB肥料の通路施肥による肥料コスト低減
	スプレー菊	チューブ式カーテンを利用した保温性能の向上
	いちご	ハウス被覆資材の使用期間の延長による資材費用の節約



大麦緑肥を活用した化学肥料使用量の低減



耕畜連携を利用した全量有機質肥料への切替え



ヒートポンプや保温資材を活用した燃料消費量の削減

# 今後の対策の推進について

- 今後の農業資材等価格高騰における対策としては、影響の大きい品目を中心に対策を進めるとともに、地域の実情に応じた対策や、スマート農業や堆肥の有効活用等の中長期的な取組を推進する。

## 対策の推進方法

- ① 市場価格の動向等の情報や現状分析を踏まえ、影響の大きい品目などを中心に対策を実施
- ② スマート農業導入や堆肥の有効活用などの中長期的な取組を、地域の実情に応じて推進

## 県域・地域における重点推進事項

### 県域（農業団体等と連携）

- ・ 農業経営への影響把握、農業資材価格等の動向や見通し等の情報収集、地域への情報提供
- ・ 基本的な技術対策の作成、先進事例等の収集と情報発信、試験研究の推進 等

### 地域（市町や農業団体と連携）

- ・ 生産現場の状況・影響把握、市町やJA等関係機関の取組に関する情報収集
- ・ コスト低減や収益確保に向けた短期的視点による技術対策の推進
- ・ 優良事例、改善事例等の把握や横展開、情報発信
- ・ 中長期的な視点で必要な事項に関する検討 等